

図5. 1 綾瀬川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表 5. 1 近年の水質の状況

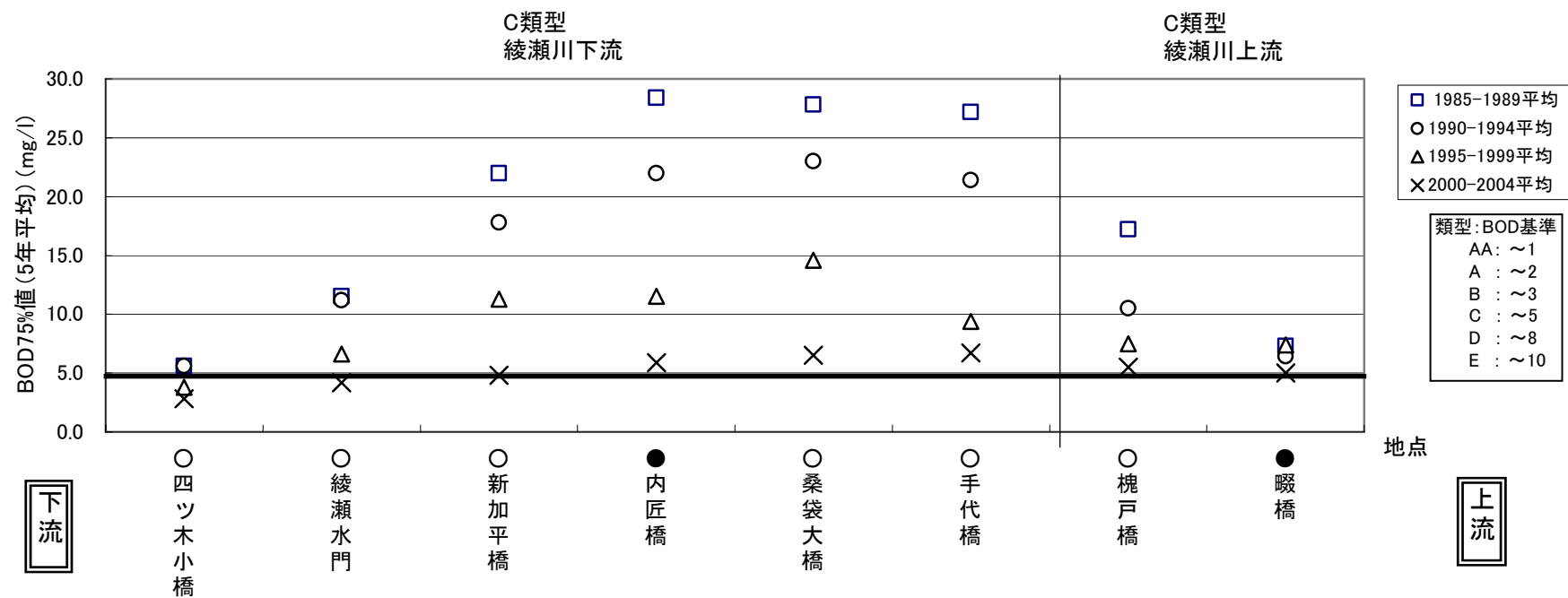
近年の水質状況(綾瀬川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
河川	綾瀬川上流	C	畷橋	H15	2.6	8.7	4.4	4.4	5	7.0	7.4	6.0~8.5	3.5	9.5	6.2	5	7	46	24	50	70,000	240,000	120,000	-
				H16	2.4	9.3	4.1	4.8	7.1	7.3	4.8		10.0	6.9	7	50	22	13,000	170,000	64,000				
				H17	2.4	8.8	4.8	6.5	7.1	7.7	5.0		8.4	6.7	8	41	21	14,000	330,000	130,000				
	綾瀬川下流	C	内匠橋(都 県境)	H15	2.3	7.5	4.5	5.7	5	7.0	7.4	6.0~8.5	2.4	7.0	3.8	5	5	61	24	50	-	-	-	-
				H16	2.1	7.5	4.9	5.2	7.0	7.3	2.5		9.5	5.1	8	90	29	-	-	-				
				H17	2.4	5.8	4.3	5.5	7.1	7.4	3.1		7.0	4.5	3	57	22	-	-	-				

出典:公共用水域の水質測定結果

◎公共用水域の水質測定結果(平成15~17年度)

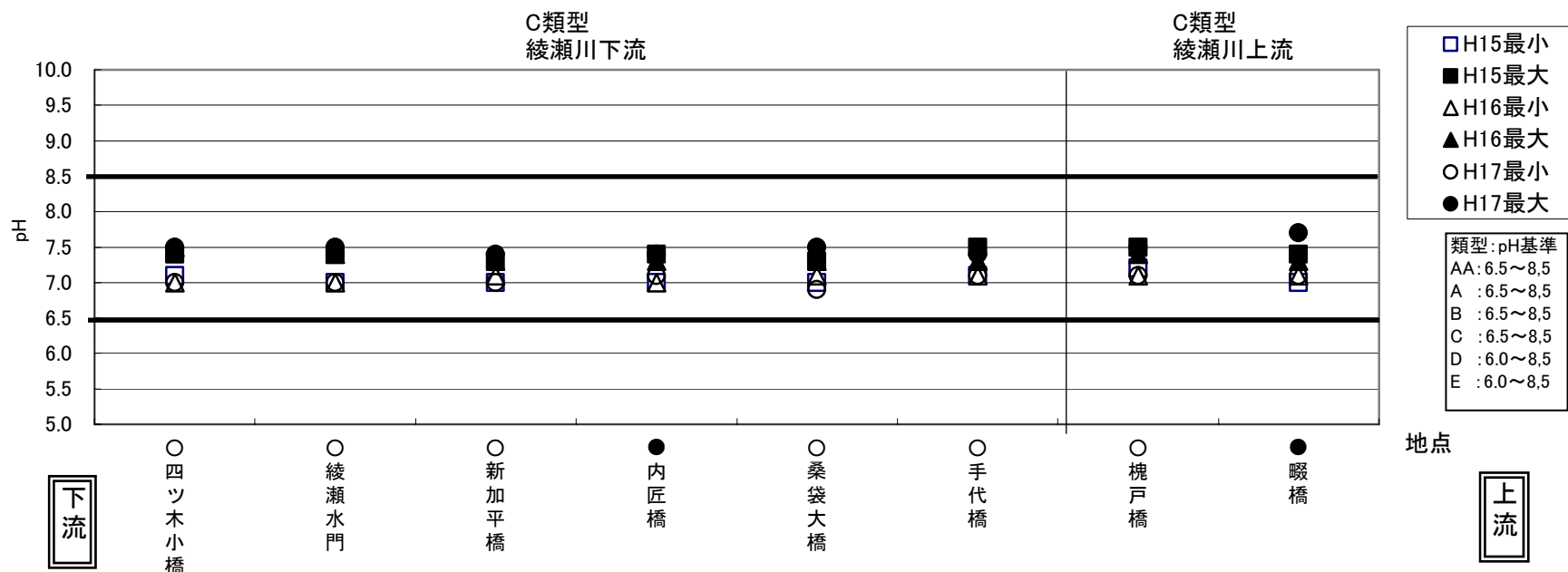
水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県・水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については国土交通省地方整備局によって実施される。
原則、河川は表層(水深の2割程度)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層・中層(必要に応じて下層)の測定結果である。



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

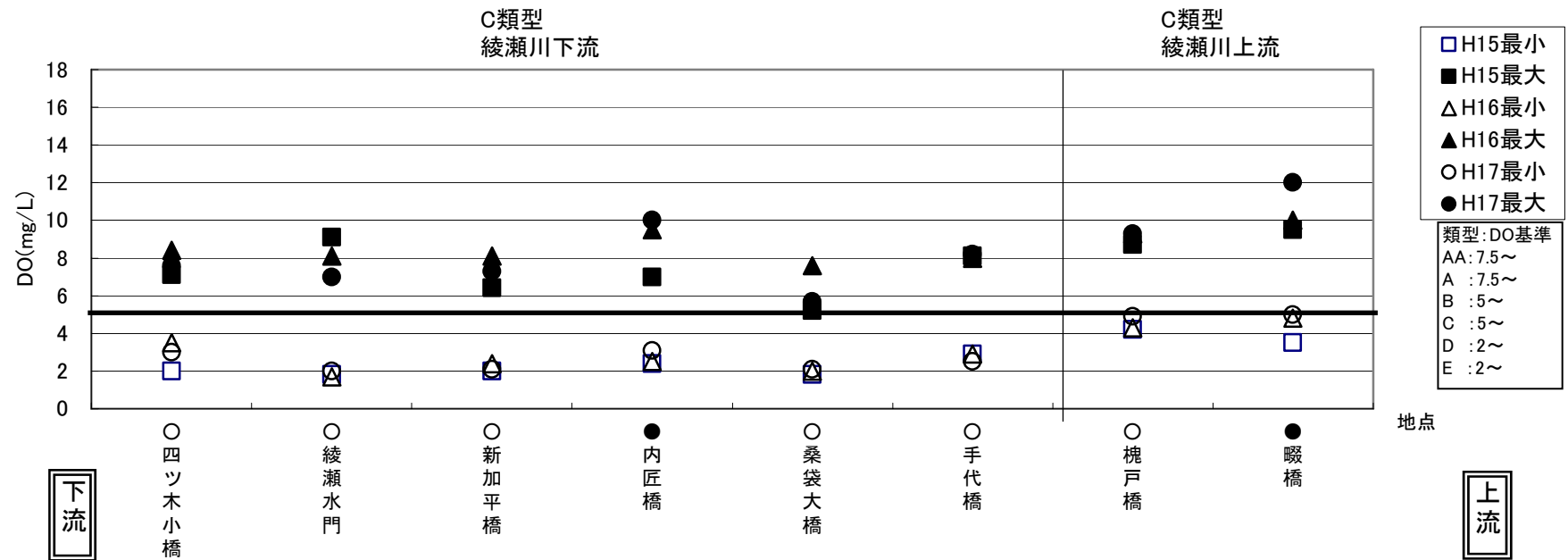
図5. 2 BOD75%値の水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

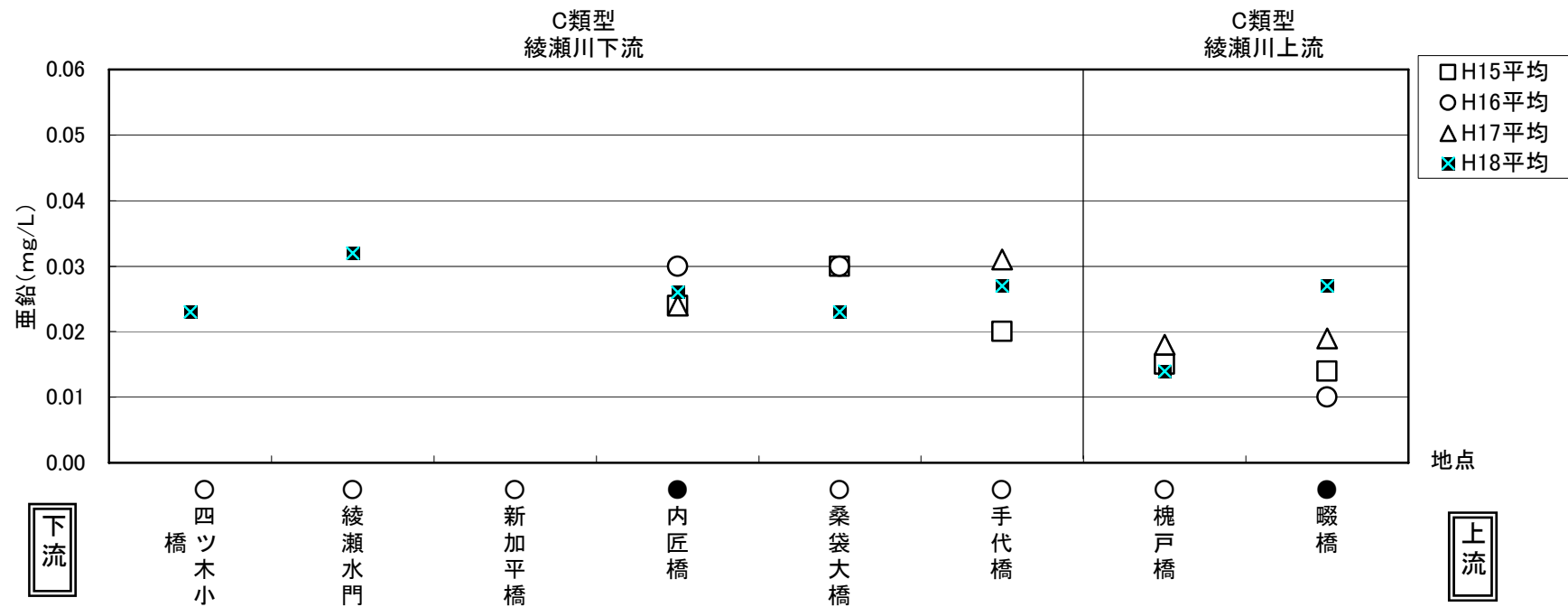
図5. 3 pHの水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

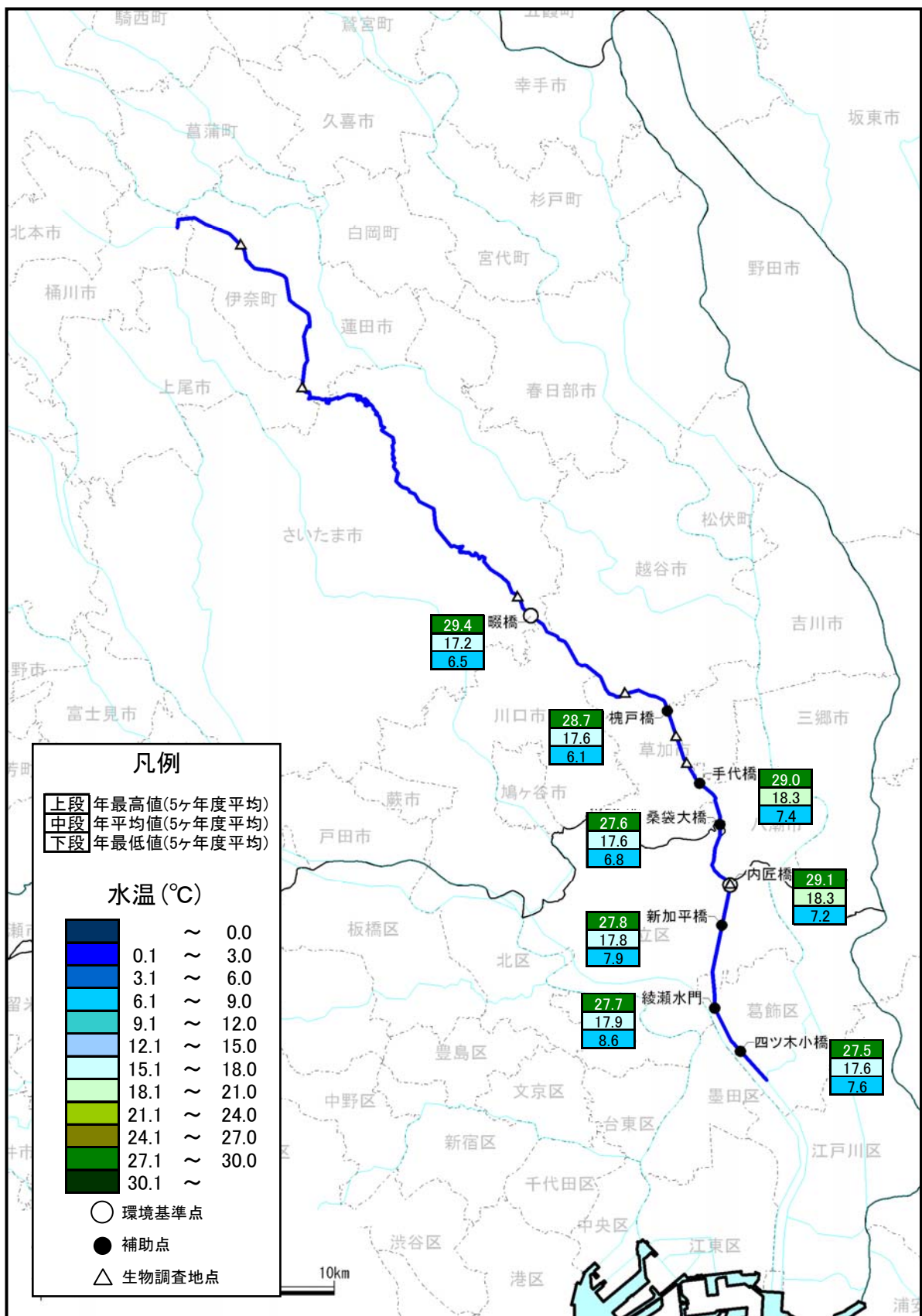
図5. 4 DOの水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)
 ※年度平均値が<0.01、<0.03(定量下限値未満)の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

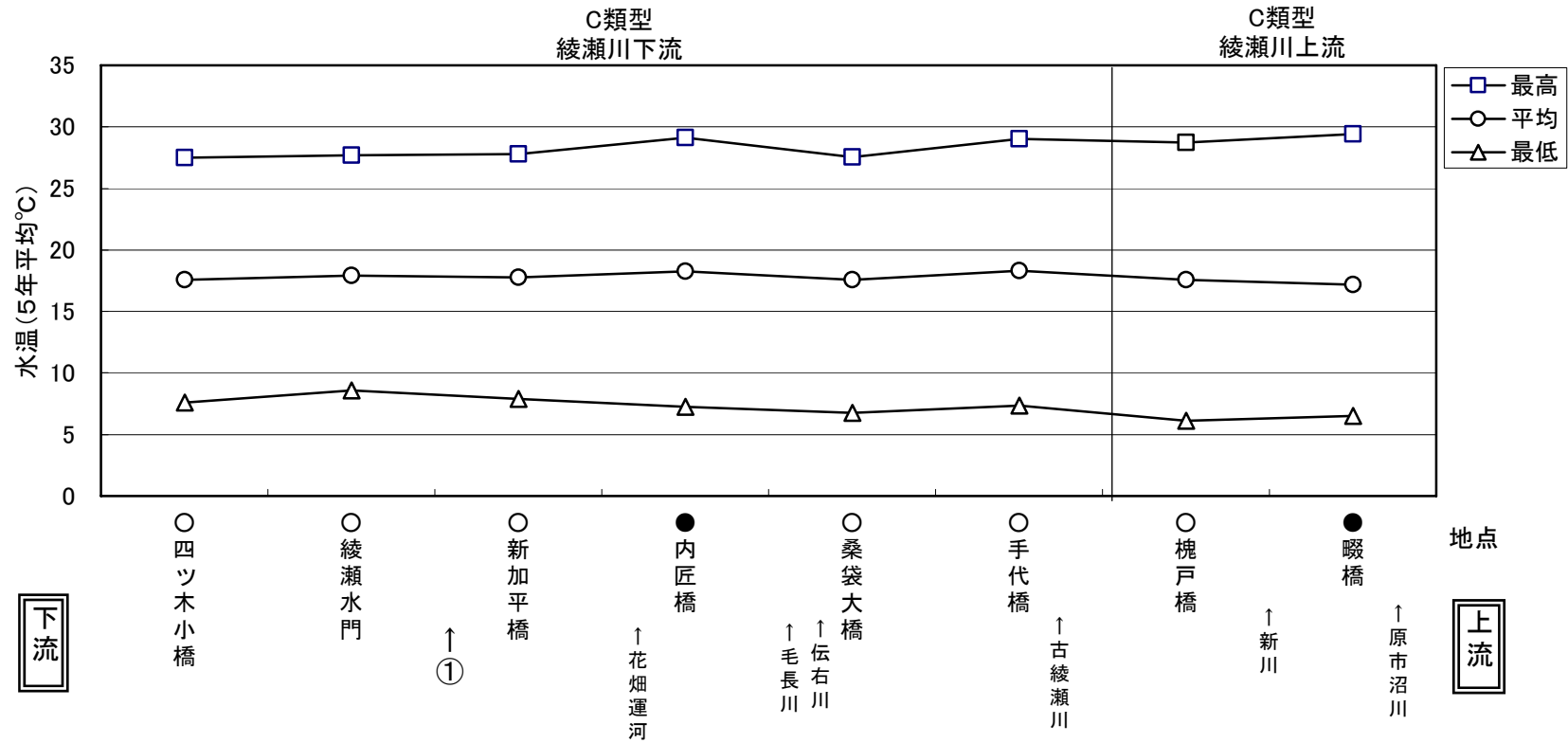
出典：公共用水域の水質測定結果

図5.5 亜鉛の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

図5.6 綾瀬川【水温】



No	河川	都道府県	処理場名	放流水質 (H16年平均)		放水量 (m ³ /s)	
				水温 (°C)	BOD (mg/l)	H16年	計画
①	綾瀬川	東京都	小菅処理場	-	<1.0	2.89	3.01

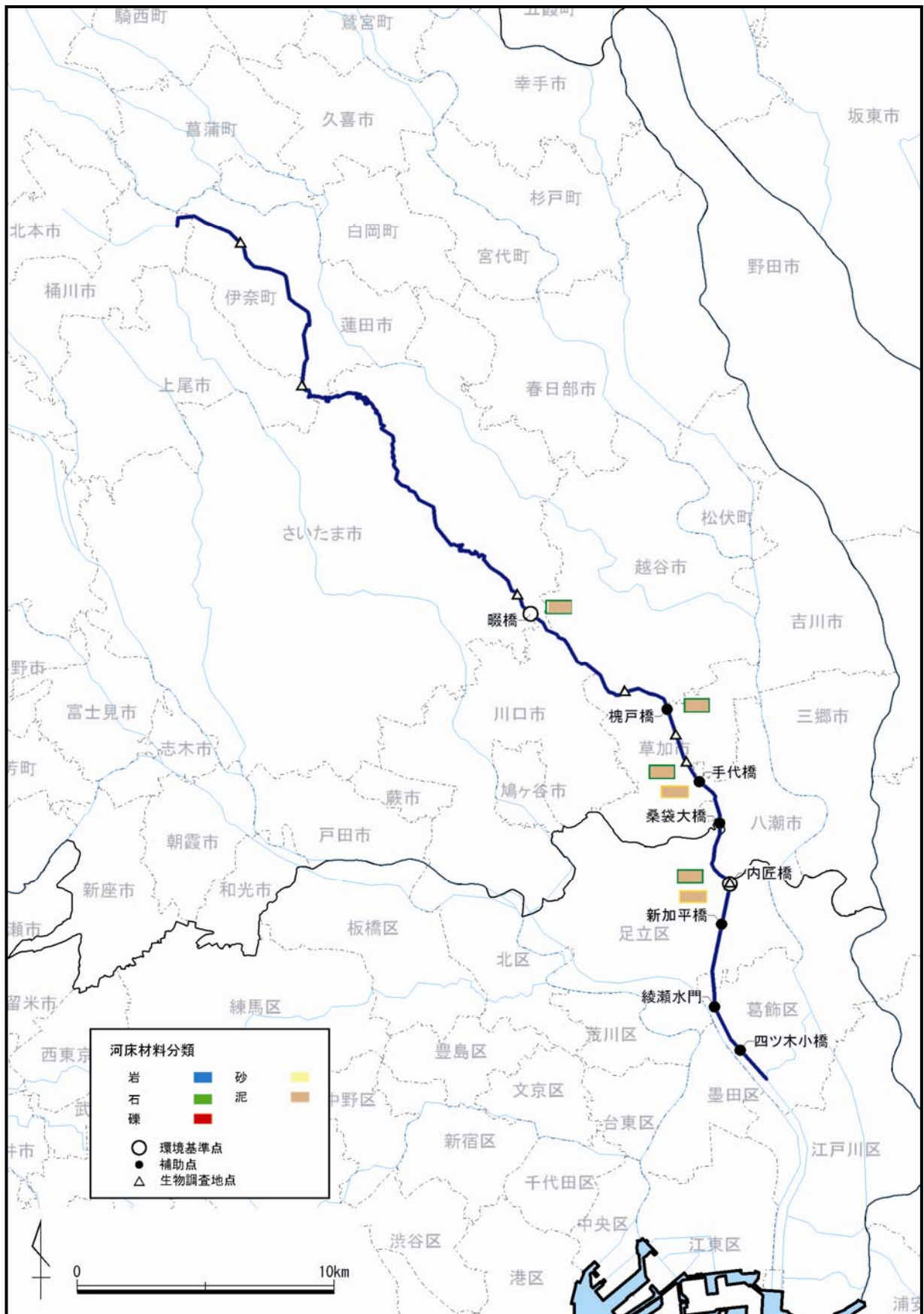
出典:平成16年度版下水道統計(行政編)

※最高・平均・最低は、平成12～16年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において、月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5年間でそれぞれ平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

地点:環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典:公共用水域の水質測定結果

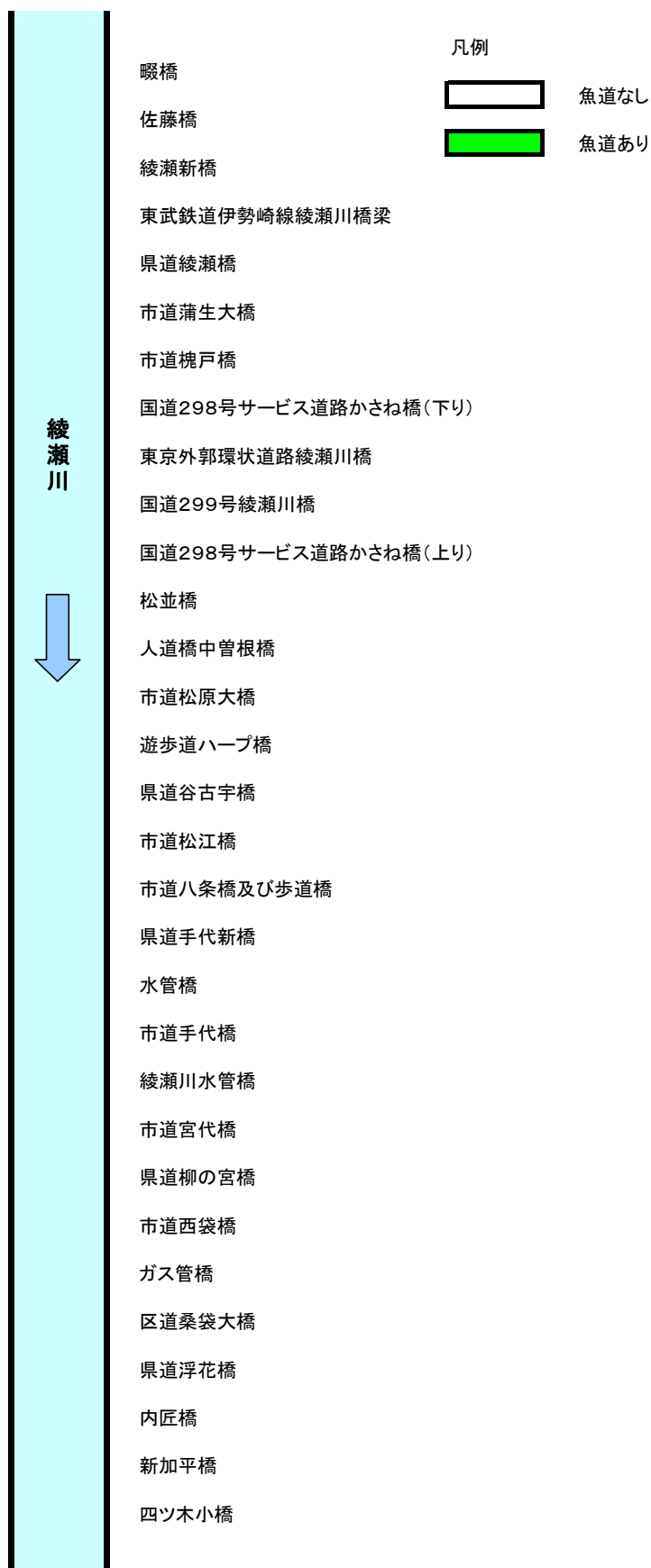
図5.7 水温の水質縦断分布



出典：関東地方建設局「平成12年度 江戸川水系(綾瀬川)河川調査報告書」

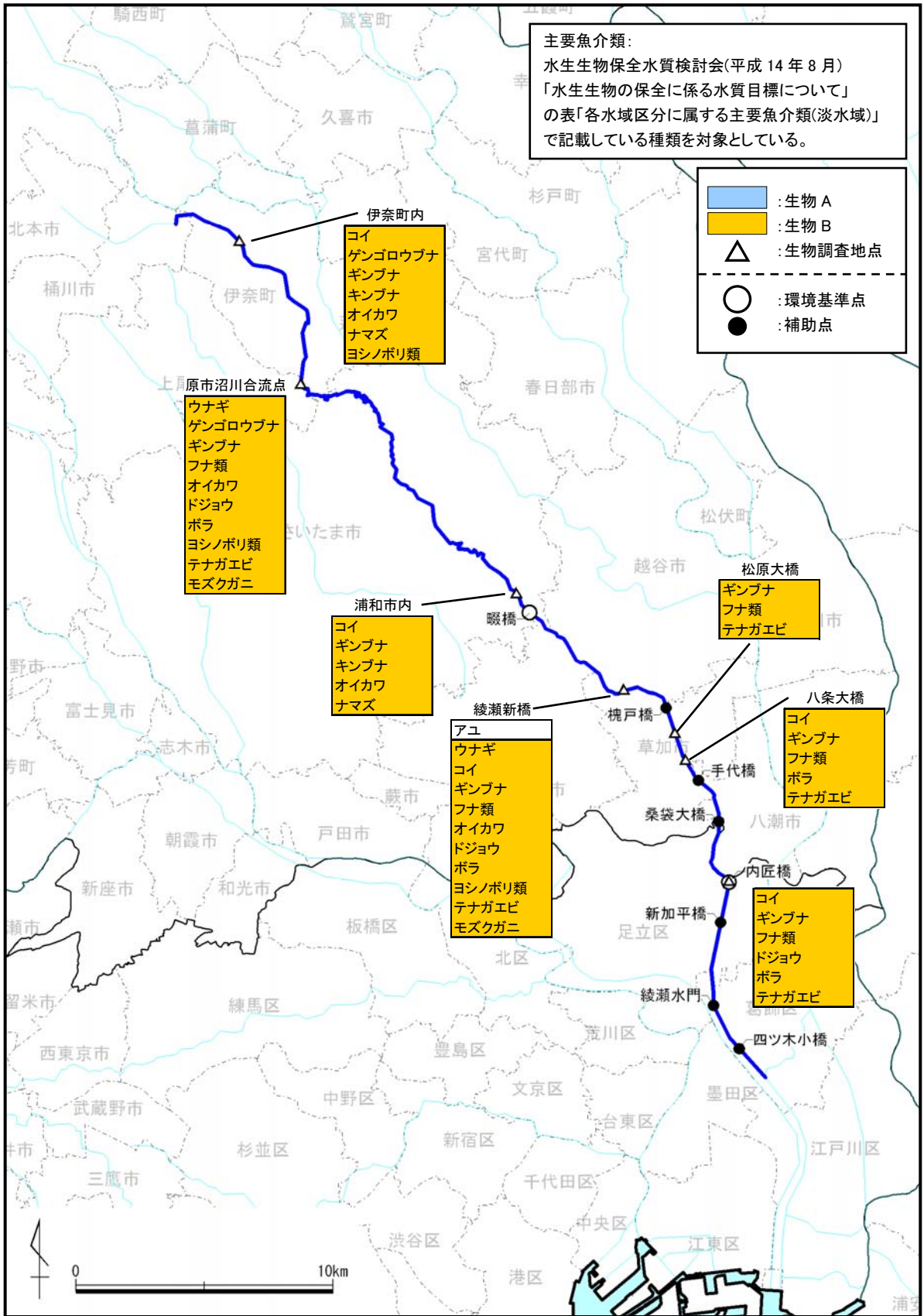
緑色は、平成14年度「漁協アンケート」、オレンジ色は平成2・3年度「河川水辺の国勢調査」より

図5.8 綾瀬川【河床材料】



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図5.9 主な河川横断工作物



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 5. 10 綾瀬川【主要魚介類の確認状況】

表5. 2 綾瀬川魚介類の確認状況（既存調査結果）

項目・分類・科・種名	調査地点		1	2	3	4	5	6	7	8
	調査時期		内 匠 橋 (国 土 交 通 省)	内 匠 橋 (東 京 都)	八 条 大 橋	松 原 大 橋	綾 瀬 新 橋	浦 和 市 内	原 市 沼 川 合 流 点	伊 奈 町 内
		平成15年度(5・10月)	平成15年度(8・10月)	平成15年度(5・10月)	平成15年度(5・10月)	平成15年度(8・10月)	平成7年度	平成15年度(8・10月)	平成7年度	
その他	魚類	キュウリウオ科	アユ				○			
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ				○		○	
		コイ科	コイ	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)						○	○
		コイ科	フナ類(ギンブナ)	○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	フナ類(キンブナ)						○	○
		コイ科	フナ類(Carassius属の数種)	○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	オイカワ					○	○	○
		ドジョウ科	ドジョウ		○			○	○	
		ナマズ科	ナマズ						○	○
		ボラ科	ボラ	○	○	○		○	○	○
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)					○		○
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種							○
		甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○	○		○
			イワガニ科	モクスガニ				○		○
その他	魚類	コイ科	キンギョ	○						
		コイ科	タナゴ(Acheilognathus)属の一種						○	
		コイ科	タイリクバラタナゴ	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種						○	
		コイ科	モツゴ	○	○	○	○	○	○	
		コイ科	タモロコ			○		○	○	
		コイ科	ニゴイ					○	○	
		コイ科	スゴモロコ					○	○	
		ドジョウ科	カラドジョウ	○		○			○	
		カダヤシ科	カダヤシ	○	○	○	○			
		スズキ科	スズキ		○					
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)						○	
		ハゼ科	スミウキゴリ		○					
		ハゼ科	マハゼ	○	○	○	○			
		ハゼ科	スマチチブ					○		
		ハゼ科	チチブ(Tridentiger)属の一種		○					
		タイワンドジョウ科	カムルチー						○	
		甲殻類	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○		○	○		○
			イワガニ科	クロベンケイガニ	○					
		貝類	ムシロガイ科(オリエゾハイ科)	アラムシロガイ	○		○	○		
サカマキガイ科	サカマキガイ					○	○			

※分類体系は山溪カラー図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。
 データの出典:調査機関・名称・年度
 国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(5・10月)調査
 東京都、隅田川他8河川水辺の国勢調査(魚介類)利根川水系、平成15年度(8・10・3月)調査
 埼玉県、河川水辺の国勢調査、平成15年度(8・10月)調査
 埼玉県水産試験場、埼玉県の生息魚類の分布について、平成7年度データ

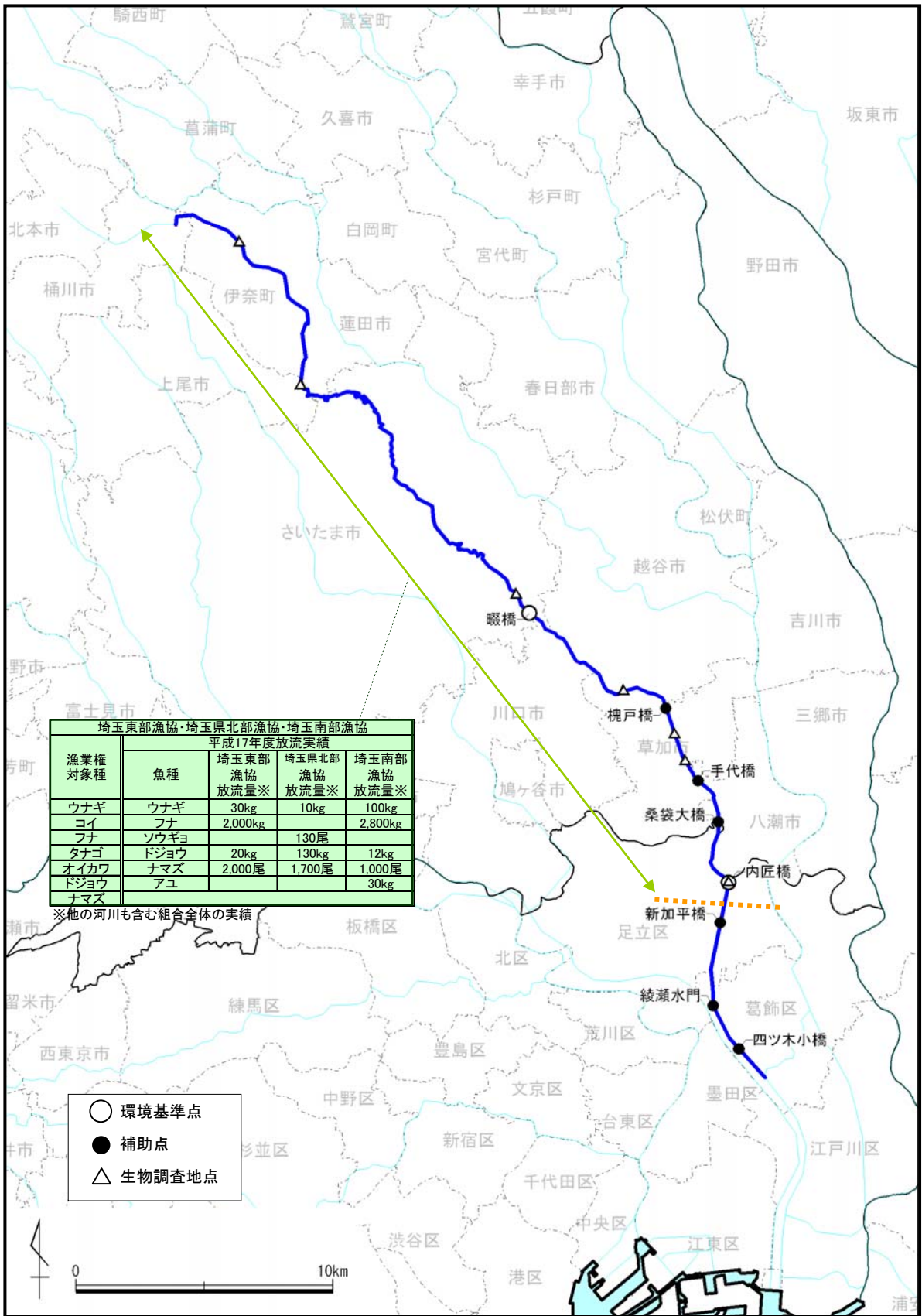


図5. 1.1 綾瀬川【漁業権設定・魚類等放流状況】

表5. 3 綾瀬川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への
ヒアリング結果の整理

	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、タイリクバラタナゴ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、ハゼ、モツゴ、タナゴ、ドジョウ、ナマズ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、タイリクバラタナゴ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。
産卵場・仔稚魚の成育場	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類は水草等が広がる場所で自然産卵していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 綾瀬川佐藤橋下流の中洲に人工産卵床を作っており、その中洲にはヨシノボリ・クチボソ等の多くの魚が生息している。最近では本川ではなく支流に整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類は水草等が広がる場所で自然産卵していると思われる。
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> コイ、ナマズを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ、フナ類、ウナギ、ナマズ、及びイシガイ科の二枚貝を放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> 放流していない。
河川環境に関する情報			

※埼玉県農林総合研究センター、東京都環境局、埼玉東部漁協、埼玉南部漁協、東京東部漁協への平成 17,19 年度ヒアリング